

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 1270902693 | | |
| 法人名 | 医療法人社団 寛麗会 | | |
| 事業所名 | グループホームうららか船橋 | | |
| 所在地 | 千葉県船橋市金杉9-8-22 | | |
| 自己評価作成日 | 平成22年3月10日 | 評価結果市町村受理日 | 平成22年5月14日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念に則して、利用者を敬い、共に生活していくことを目指し、ケアにも工夫や配慮をしている。また、ひとりひとりの性格や生活歴、能力をホームでの生活でも活かせるよう、利用者主体を原則としてセンター方式を活用している。
利用者、職員、ご家族等お互いに理解を深め、共に協力しあいながらホームをつくらせている点。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは船橋市の閑静な住宅地の中にある。今年、開設7年目で2ユニットを運営している。内1つのユニットには13人のスタッフがいるが、5人いる常勤スタッフの平均年齢は20代と若い。事業所は南向きで日当たりもいいが、スタッフの元気な笑顔が事業所をより明るくしているようだ。面接をしたスタッフの中でお子さんのいる人がいるが、「勤務シフトを作成する時は家族状況を配慮していただき、とても恵まれた環境に感謝している」と話している。ここ数年スタッフの異動が多く、利用者家族や職場内でのコミュニケーションに課題もあったようであるが、その中で希望すれば毎日入れる入浴や散歩は欠かさずに実施しており、このホームの特徴になっている。スタッフもようやく定着しつつあり、新任施設長の今後の一層のご活躍に期待したい。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-----------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ACOBA |
| 所在地 | 千葉県我孫子市本町3-7-10 |
| 訪問調査日 | 平成22年3月19日 |

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 該当するものに印 | 項目 | 取り組みの成果 該当するものに印 |
|--|---|---|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------|-----|---|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ミーティング時等に理念を取り上げ、共有をはかっている。また、利用者、家族にも契約時に理念の説明を行っている。 利用者への声かけや対応も理念に基づき個々のペースに合わせるよう心掛けている。 | ホームの理念は「皆様の心身症状の緩和・回復を目指します」など4項目からなっている。職員へは入職時での教育やミーティングの時に繰り返し説明したり、時にはレポートに書かせて徹底を図るようにしている。 | |
| 2 | (2) | 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 平成19年より自治会に加入し、会合やゴミ拾い等の行事に参加し、交流を深めつつある。 散歩時に近隣の方に農作物やお花をいただくこともある。 | 町内会の総会には毎回出席をしている。年2回のゴミ拾い(クリーンデー)や様々な行事活動に参加し交流を図っている。町内会の班長は散歩等における苦情への相談に乗ってくれたり協力的である。 | |
| 3 | | 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 自治会でホームの紹介を行った。 ホーム案内や認知症について理解していただけよう、自治会回覧板を活用予定。 | | |
| 4 | (3) | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議では、ホームの現状を報告し、話し合いを行っている。また、議事録はご家族に送付している。 | 運営推進会議は平成20年、21年と1回づつ開催した。メンバーは町内会班長、民生委員、中央包括センター職員、家族会代表、施設職員である。今年から他の施設の施設長にも出席を依頼するつもりである。 | 2年続けて年1回の開催である。今年会議を抜本的に見直し、回数を多くするようであるが、事業所に対する利用者家族の希望も多いようなので、的確な運営と対応を期待したい。 |
| 5 | (4) | 市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市担当者に相談する機会はある。 | 市の担当者がGHホーム連絡会に出席した折や様々な機会を通じて、ホームページに関する相談や依頼事項をしている。生活保護対象利用者もあり、生活支援課とは連携がある。 | |
| 6 | (5) | 身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 日中は、基本的には玄関は施錠していない。 管理者は身体拘束廃止研修に参加し、スタッフに報告、周知を行っている。 | 玄関にとり付けたセンサーを活用して日中は施錠はしていないが、安全のために夜は施錠するようにしている。怪我をしている利用者のベット柵については家族と相談し対応している。 | |
| 7 | | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止に日々努めているが、研修の機会はつくれていない。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支 | 必要に応じて活用できるように支援していきたい。 | | |
| 9 | | 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時、解約時には充分話し合いを行い、不安や疑問は解消できるよう努めている。 | | |
| 10 | (6) | 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者からは日常的に意見を聞く機会あり。 ご家族からは面会時等にコミュニケーションをはかり、反映に努めている。 | 年1回開催の家族交流会や面会時を活用して利用者意見を聞くようにしている。電話やFAXでの要望もある。お聞きした意見、要望は会議にかけたり、ミーティング時にスタッフと意見交換を行う等運営に反映させている。 | 利用者アンケートに書かれた内容を見ると、スタッフが引受けた事が出来ていなかったり、情報が共有されていないなど、日常における運営に課題があるようだ。意見や要望に真摯な対応を期待したい。 |
| 11 | (7) | 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月に1回のフロアミーティングと、全体ミーティング時に意見交換を行っている。 | 管理者と職員は月一回のフロアミーティングと、全体ミーティング時に率直な意見交換を行っている。事業所に常勤でない理事長には日報で報告し、適宜電話/FAX等で指示を仰いでいる。 | 法人本部と事業所において、運営における課題の共通認識は欠かすことの出来ない重要事項である。密なるコミュニケーションづくりに注力し、サービス提供に反映していただきたい。 |
| 12 | | 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者への報告や相談を毎日行っている。 | | |
| 13 | | 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 事前申請により、外部の研修や勉強会への参加を奨励している。 年1回人事考課実施。 | | |
| 14 | | 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 市内のグループホーム連絡協議会に参加しており、ネットワークづくりや情報交換を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 事前面談を実施し、必ずご本人と会話し合う機会を設けている。 | | |
| 16 | | 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 事前面談時に実施している | | |
| 17 | | 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 事前面談を実施し、ご本人、ご家族との話し合いを元に事前介護計画を作成している。 | | |
| 18 | | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 日々の生活の中で家事等を一緒に行う、という立位置を職員は忘れず、その中でお互いの信頼関係を築けるよう努めている。 | | |
| 19 | | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 機会あるごとに、ご本人を共に支えていることを説明し、協力依頼している。 面会時や、毎月の月間報告等密な連絡を努めており、ご本人を含めての話し合いを行う場合もある。 | | |
| 20 | (8) | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご家族からの情報やご本人の希望を聞き、可能な限り対応している。 | 入居前利用のデイサービスへ遊びに行ったり、福祉センターの健康体操への参加や、姉妹や知人への手紙の支援、行きつけの理容店に連れて行く等、馴染みの人や場の関係継続を支援している。 | |
| 21 | | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の人間関係、相性や性格を把握し、声かけ等工夫を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|------|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了後のご家族から、入居希望者の紹介をいただいたり、ホームに立ち寄ってくださる事があり。 | | |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご本人主体の生活、ケアを実現しやすいよう、センター方式を活用している。 | 日々の生活の中で本人から話を伺う、家族からは訪問時や電話で伺う、担当職員が日常の様子を把握するなどセンター方式の様式で積み重ね、多方面から思いや意向の把握につなげている。 | 家族アンケートでは、職員は本人の思いや意向をわかってもらえていない、と感じている声が多少見られる。本人の思いを明確に把握するのは難しいことであるが、聞き取りや接し方など、更に工夫されることを期待したい。 |
| 24 | | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 事前面談や、ケアマネージャー、ご家族やご本人からの情報収集によって把握。 | | |
| 25 | | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | アセスメントの実施。ミーティング時に職員間での共有をはかっている。 | | |
| 26 | (10) | チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 介護計画は職員で話し合いを行ってから作成しており、ご家族からも意見をいただいている。 | 家族の面会時等に意向を伺ったり、記入してもらったり、担当職員からの気づきや毎日の詳細な介護記録をもとに、職員間でよく話し合い計画を作成している。また家族に説明し了解を得ている。 | |
| 27 | | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個々の様子を具体的に記録している。また、すぐに目を通せるよう介護計画はファイルしており、評価や見直しもミーティング時に行い共有している。 | | |
| 28 | | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご家族の協力を得ながら、可能な限り対応している。 同法人内歯科の往診の利用あり。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ご家族等周囲の協力を得ながら、これまで通りのその方らしい生活を実現できるよう努めている。 | | |
| 30 | (11) | かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 提携の医療機関の往診や、以前からのかかりつけ医への受診を行っている。 | 入居前からの掛かりつけ医への通院には契約時に、家族対応か事業所対応かを選択する仕組みである。その他希望により週1回の歯科医訪問や月2回の内科受診等の支援をしている。 | |
| 31 | | 看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 現在職場内に看護職はおらず。受診時等に相談をすることはある。 | | |
| 32 | | 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入退院時には病院、ご家族との話し合いを設けている。 | | |
| 33 | (12) | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ご家族には、まめに現状を報告し、今後についての相談を行なっている。 | 入居時に、終末期に特別な治療が必要になった時は医療機関に移っていただくことを説明し了解を得ている。 | |
| 34 | | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 年2回の消防訓練時に、救急救命法訓練を行っている。 事務所内に緊急時対応マニュアルを掲示。 AED設置あり。 | | |
| 35 | (13) | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の消防訓練あり、夜間想定での避難訓練を定期的実施。 | 消防署指導で、夜間を想定した避難訓練や消火訓練、救急救命法など、利用者と一緒に実施した。マットを難燃性にし、22年度中にはカーテンを難燃性に交換やスプリンクラー設置を予定をしている。 | 町内会に加入して活動に参加しているが、まだ災害時の協力体制は得られていない。地域の協力が得られるような働きかけを期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 声かけの際は、尊厳を守れるよう配慮している。 | 利用者は目上の方であり、人生の先輩であるということを念頭に接している。トイレ誘導の際の声掛けも羞恥心に配慮する、会話時は声の大きさやトーンに配慮するなどしている。 | |
| 37 | | 利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | なるべく利用者自らが選択をする機会を増やせるよう日々の中で働きかけている。 | | |
| 38 | | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 業務を時間で決めず、入居者のペースに合った生活を送っていただけるよう支援している。 | | |
| 39 | | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 希望に沿って理美容院へ外出。 | | |
| 40 | (15) | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 準備、食事、片付けはなるべく職員が利用者と一緒に、常に目配り、気配りを行う。 | 野菜を切る、配膳や下膳、後片付けなど出来る方は積極的に参加している。また食事時はテレビを消して、全員が揃って食卓に向かい、楽しみながら食事をしている。菜園で育てた野菜が食卓に上ることもある。 | |
| 41 | | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事、水分の量を記録している。 必要に応じて、好みの物を提供したり、介助を行ったり支援している。 | | |
| 42 | | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後に口腔ケアを実施、必要に応じて介助を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個々の排泄状況を把握し、トイレ誘導や、パッド、下着等の使い分けを必要に応じて行い、自立を目指している。 | 日常の仕草やバイタル表をもとに本人の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。昼間は布パンツやパッド使用にするなど、利用者毎のリズムに合わせた排泄の自立支援を行っている。 | |
| 44 | | 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 主治医と相談しながら、薬の使用を検討したり、排泄パターンを把握しそれぞれ便秘予防に努めている。 | | |
| 45 | (17) | 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴の時間の制限は作らないようにし、なるべく好きな時間帯で入浴して頂いている。できる限り同性介助している。 | 原則として、一日おきに入浴することになっているが、毎日や午前・午後・就寝前などの対応も可能で、本人の希望時間の入浴を支援をしている。 | |
| 46 | | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個々のリズムに合わせて生活していただくよう支援。 昼夜逆転防止の為に日中の活動を促している。 | | |
| 47 | | 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | お薬手帳の活用や、個人ファイルにて確認。分薬は職員が行っており、服薬状況の把握を徹底できるように支援している。 | | |
| 48 | | 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | それぞれが得意な事を活かせるように支援し、無理強いはいはしないよう注意している。 | | |
| 49 | (18) | 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 買い物や、散歩等希望に応じて外出支援できるような心がけている。 ご家族等の協力により外泊や選挙投票等外出されている場合もある。 | 天気の良い時は毎日散歩をしている。午前・午後と2回散歩をする時もあり、近くのスーパーで買い物を楽しむこともある。初詣や花見、蕁狩り、梨狩りなど車に弁当を積んでの外出は利用者に喜ばれている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自己管理が可能な方はこづかいを持っているが、金銭の管理は基本的には職員が行っている。 可能な場合は、買い物時にご本人に精算していただいたりすることもある。 | | |
| 51 | | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望時には電話をお貸ししている。 手紙は必要に応じて介助を行っている。 | | |
| 52 | (19) | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | カーテンや照明で明るさを調整している。 個々に適した音量等で声を掛けるよう配慮している。 季節に合った掲示やディスプレイを行っている。 | 玄関や廊下などの飾りや置物は季節に配慮したものを配置している。椅子の他にソファも置かれリラックスできるように配慮している。施設全体が適切な温湿度に設定され、居心地よく過ごせるよう設備されている。 | |
| 53 | | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ダイニングテーブル、ソファ等で自由に寛げるよう配慮している。 自由にお互いの居室を行き来する姿もみられる。 | | |
| 54 | (20) | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に、なるべく使い慣れた家具や生活用品を持ち込んでいただけるよう説明している。 | 使い慣れた馴染みの机や椅子、本棚・タンスなどが持ち込まれ、写真等も飾られ好みに配置し、居心地よく過ごせるよう工夫している。 | |
| 55 | | 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 個々の能力を活かせるよう職員間で話し合い、工夫をしたり、不必要な介助は行わないようにしている。 また、対応の均一化を図る為、介入シートを作成し活用している。 | | |